

KVK 台付2ハンドルシャワー KF2008(Z) 〈各仕様共通〉 施工説明書

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。
■この施工説明書はKF2008仕様のイラストで説明しています。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはならない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

警告	<p>湯水を逆に配管しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。</p>	<p>給湯温度は85℃より高温で使わないでください。</p> <p>禁止</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工および接合等の改造はしないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
	<p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓には絶対に通電しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>スチームルームおよび乾燥室にご使用の際は相談ください。</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>
	<p>給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。また、湯側を加圧する場合も湯側圧力を水側より低くしてください。</p> <p>給湯圧力を給水圧力より高くすると、正常な温度調節ができなくなり、やけどをすることがあります。</p>	<p>他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。</p> <p>やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。</p>	

注意	<p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>めっき部品は、ぶつかけたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。</p> <p>禁止</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをすることがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。</p>	<p>めっきシャワーヘッド仕様の場合</p> <p>めっきシャワーヘッドは、公衆浴場・レジャー施設等、不特定多数の方が頻りに利用する場所では使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>湯</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをすることがあります。</p>
	<p>凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。</p> <p>水抜き</p> <p>水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>		

取り付け前に

- ① 使用水圧 (A = (給湯器の最低作動水圧) + (配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温: 25℃ 給湯器温度調節、高温: 吐水温度 42℃ ハンドル全開) (比例制御式) 最低必要水圧: A+0.05MPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: A+0.05MPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ③ 給湯器の給湯温度は、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- ④ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑤ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑥ 本製品は改造(加工及び接合等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑦ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

故障かなと思ったら…

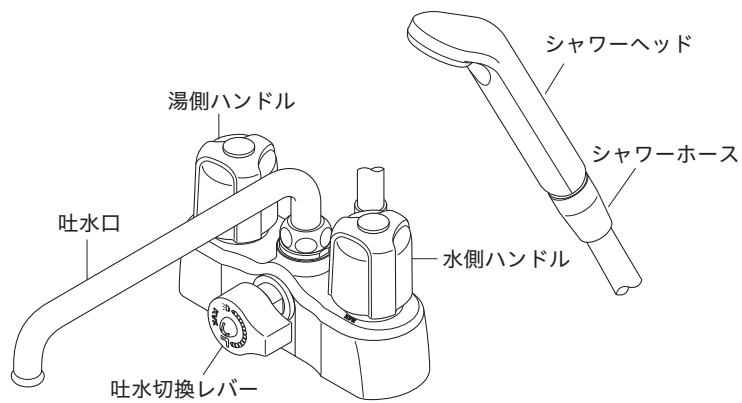
修理を依頼される前にお確かめください。

➡ **取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照**

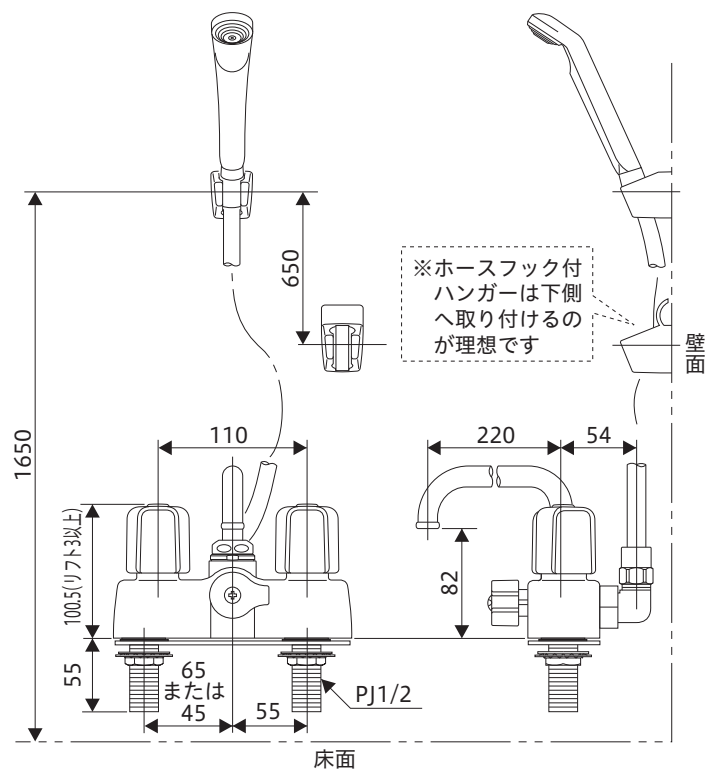
注意 修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。

取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図 / 分解図 この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

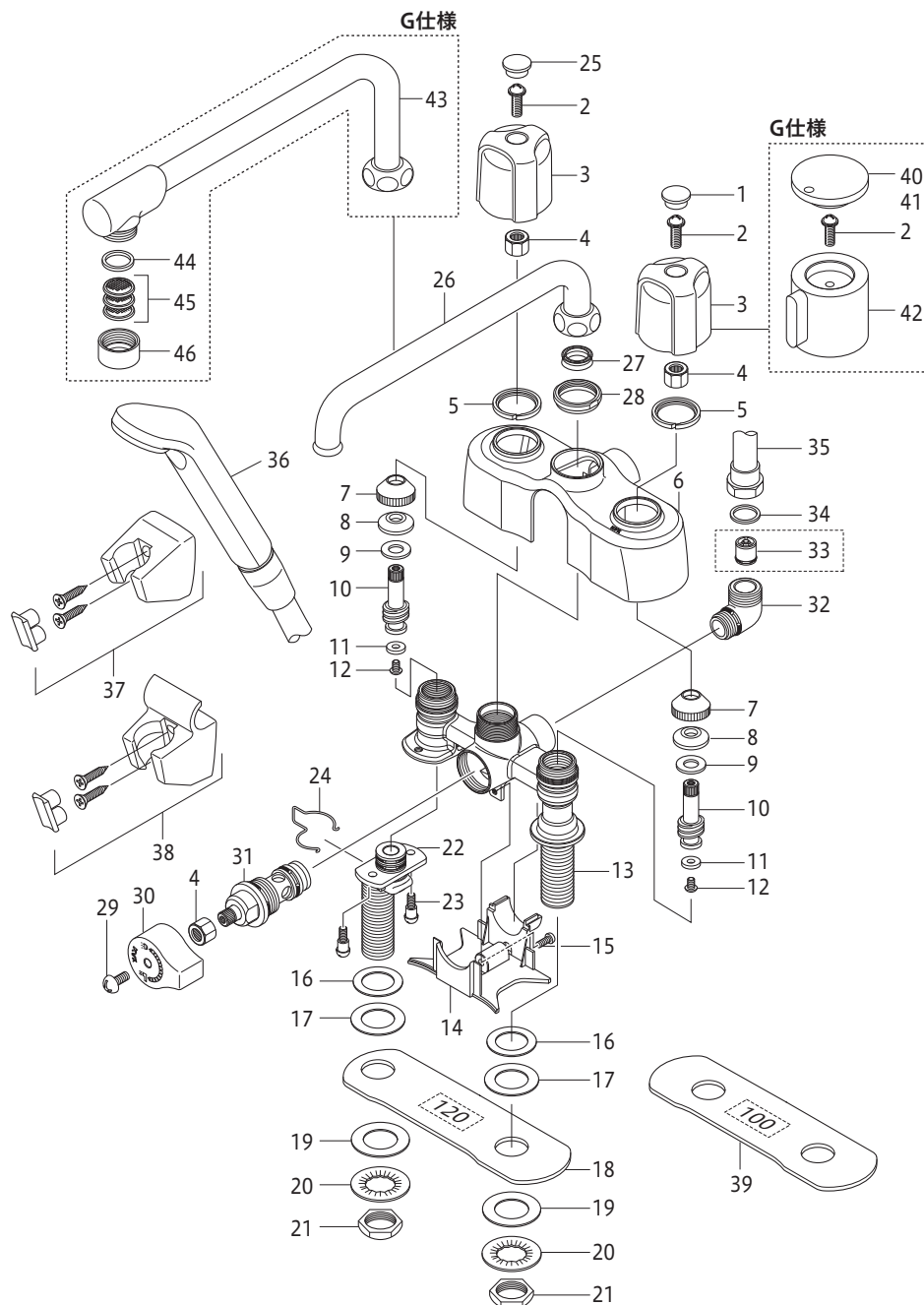
取り付け完成図と各部の名称



寸法図 各部寸法は仕様によって異なる場合があります。



分解図 部品の形状は仕様によって異なる場合があります。



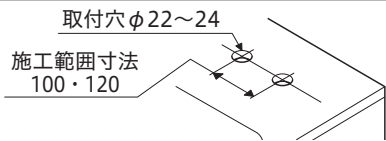
1	水側キャップ
2	ねじ
3	ハンドル
4	ハンドル金具
5	Cリング
6	上カバー
7	袋ナット
8	三角パッキン
9	平座金
10	スピンドル
11	こまパッキン
12	ねじ
13	本体
14	下カバー
15	なべ小ねじ
16	シートパッキン
17	平座金
18	シートパッキン
19	パッキン
20	菊座
21	締付ナット
22	ソケット
23	組付ねじ
24	クリップ
25	湯側キャップ
26	吐水口
27	Xパッキン
28	吐水口リング
29	トラス小ねじ
30	吐水切換レバー
31	切換弁ボンネット
32	シャワーエルボ
33	逆止弁(一般地仕様のみ)
34	輪パッキン
35	シャワーホース
36	シャワーヘッド
37	シャワーハンガー
38	ホースフック付ハンガー
39	シートパッキン
40	水側キャップ
41	湯側キャップ
42	ハンドル
43	吐水口
44	パッキン
45	ストレーナ
46	整流器キャップ

取り付け注意事項（取り付け前に確認してください）

2ハンドル水栓からの取替えの場合、吐水口が浴槽に届かないということがないように吐水口位置に注意してください。

1. 取付穴の確認

水栓を取り付ける前に必ず取り付け穴の寸法を測定してください。
この製品は、取付ピッチが100・120mmに可変することができます。



2. 必要寸法の確認

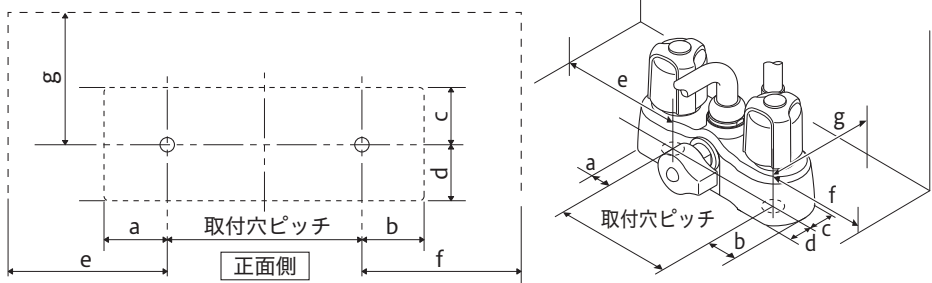
【座面必要寸法】

取付カウンターに、下表の取付面を確保してください。

【本体部必要寸法】

取り付け部後ろおよび左右の壁等が下表寸法よりも離れていないと、●壁に当たって取り付けられない
●メンテナンスがしにくい●ハンドルが操作しにくいという不具合が生じます。

【上から見た図】



e: 湯側ハンドル部必要寸法 / f: 水側ハンドル部必要寸法 / g: シャワーエルボ部必要寸法

取付穴ピッチ	A: 120mm	B: 100mm
水栓下から見たソケットの向き		
水栓側面から見たソケットの向き		
座面必要寸法	a	25以上
	b	35以上
	c	30以上
	d	30以上
本体部必要寸法	e	85以上
	f	95以上
	g	90以上

※工場出荷時は取付穴ピッチ120mm

5 ページ

取り付け手順 1

1 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内のゴミなどを取り除いてください。

2-1 取付穴ピッチの確認とソケットの調整および水栓本体の取り付け

A. 取付穴ピッチ120mmの場合

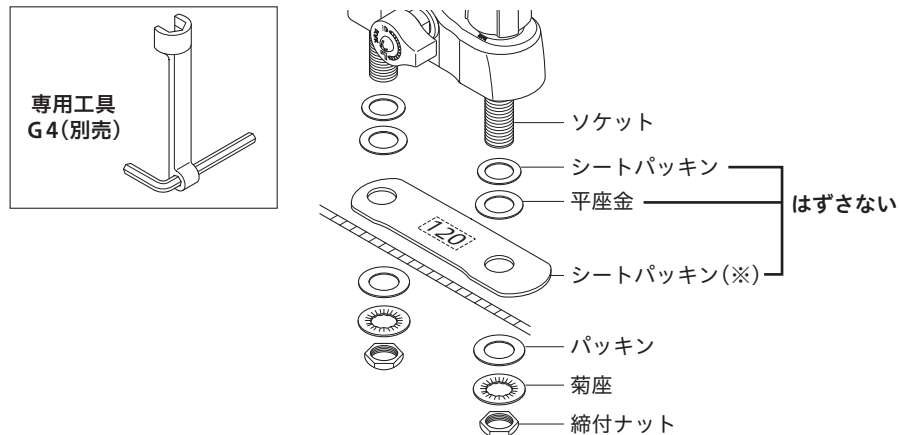
※工場出荷時、ソケットは取付ピッチ120mmで組み付けられていますのでソケットの調整は必要ありません。

① ソケット部に組み付けられている、締付ナット・菊座・パッキンをはずします。

この時、シートパッキン・平座金・シートパッキン(※)ははずしません。

② ソケットを取付穴に挿入し、下記の順に水栓本体を固定します。

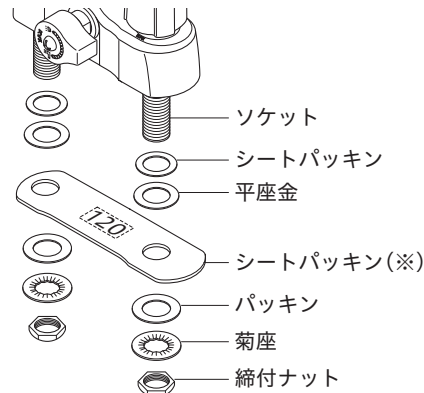
【△注意】締付ナットの締め付けは、専用工具G4(別売)で行ってください。
しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



B. 取付穴ピッチ100mmの場合

※工場出荷時、ソケットは取付ピッチ120mmで組み付けられていますのでソケットの調整が必要です。

① ソケット部に組み付けられている、締付ナット・菊座・パッキン・シートパッキン(※)・平座金・シートパッキンを取りはずしてください。



6 ページ

取り付け手順 2

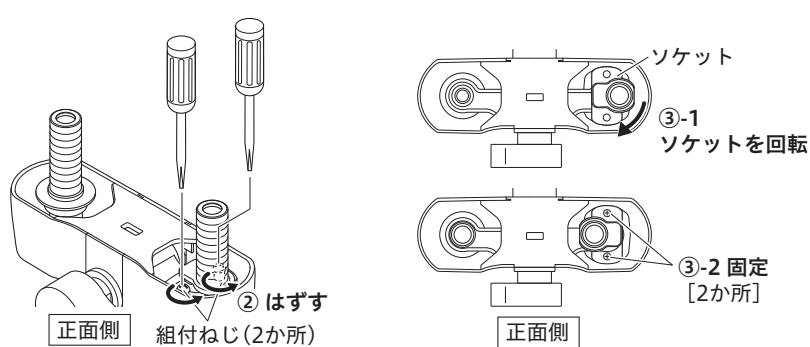
2-2 湯側ソケットの組付ねじをはずします。

③ 湯側ソケットのねじ部が内側へ向くように回転させ組付ねじで固定します。

(ソケットはクリップで固定してあり、抜けないようにしてあります。)

【△注意】組付ねじは確実に締め付けてください。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

<水栓下から見た図>

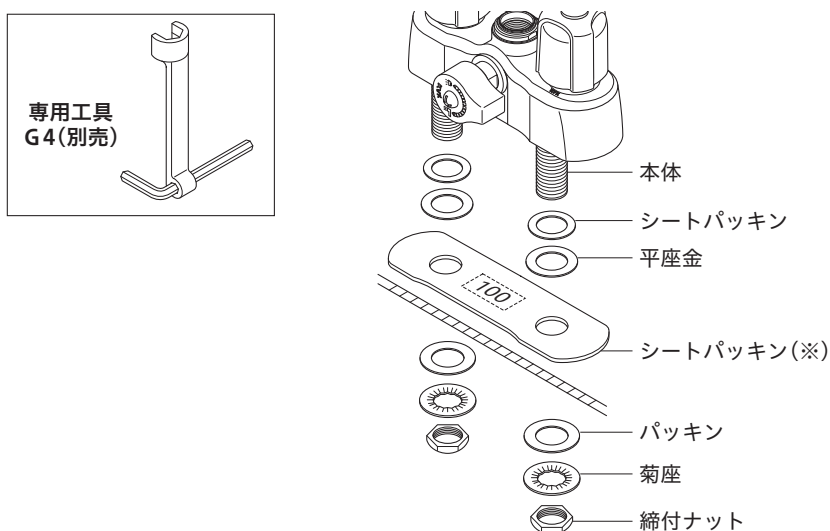


④ 下図の順に水栓本体を固定します。

【お願い】シートパッキン(※)は取付穴ピッチ100mm用を使用してください。

【△注意】締付ナットの締め付けは、専用工具G4(別売)で行ってください。

しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



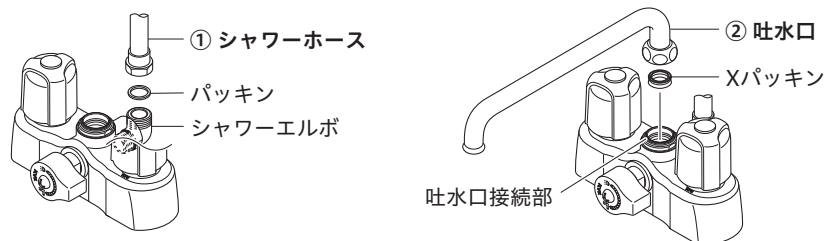
3 シャワーホースと吐水口の接続

① シャワーホースをシャワーエルボに接続します。

② 吐水口を吐水口接続部に接続します。

締め付けは、二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。

【お願い】締め付ける際は傷がつかないように、あて布等をしてください。



取り付け後の点検と清掃

通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。

確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

こまパッキン清掃のお願い

スピンドルのこまパッキンにゴミの付着などがありますと、湯水が止まらない場合がありますので、施工後、湯水が止まらない場合は、こまパッキンの清掃をしてください。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

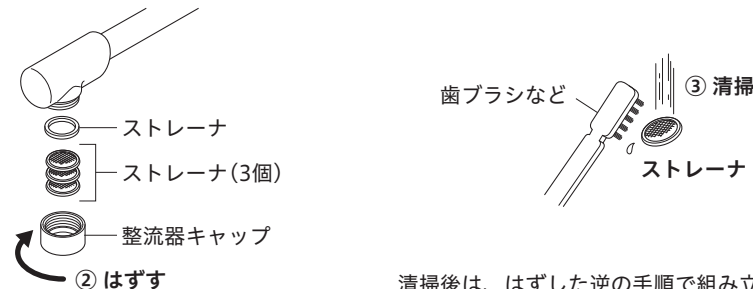
ストレーナ清掃のお願い(仕様によりストレーナが無い場合があります)

吐水口のストレーナにゴミ等が詰まると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりする場合がありますので、施工後必ず清掃してください。

① 湯水全開で20~30秒吐水させます。

② 吐水口の整流器キャップをはずす方向にひねって、ストレーナを取りはずします。

③ ストレーナをブラシで水洗いします。



清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

7 ページ

8 ページ